

北九州総合病院形成外科専門研修プログラム

目次□

1. 形成外科専門研修の理念と使命□
2. 北九州総合病院形成外科専門研修後の成果□
3. 北九州総合病院形成外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・ 専門知識の習得計画
 - ・ 専門技能の習得計画
 - ・ 経験目標(経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等)
 - ・ プログラムにおけるカンファレンス
 - ・ リサーチマインドの養成計画
 - ・ 学術活動における研修計画
 - ・ コアコンピテンシーの研修計画
 - ・ 地域医療に関する研修計画
 - ・ サブスペシャルティ領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ・ 専攻医の評価時期と方法
 - ・ 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ・ プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画
 - ・ 専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能□
 - 4.5 形成外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制□
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1.形成外科専門研修の理念と使命

① 領域専門医の理念

形成外科専門医は、国民の皆様に質の高い臨床医学を提供することが求められます。このため形成外科専門医制度は、医師として治療するために必要な臨床能力、基本的・応用的外科的手技・実践能力を備えた、国民の身体の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とした医師を育成します。

この専門医研修プログラムは医学分野に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有するとともに社会性、倫理性に適正な形成外科専門医を育成することを理念とします。

② 形成外科専門医の使命

形成外科専門医は、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害を診断し、形態と機能を回復させ、障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供、実行できる能力を備え、良質かつ安全で心のこもった医療を提供する事により、国民の身体、機能、精神面の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。□

2.北九州総合病院形成外科専門研修後の成果

専門研修プログラムを修了した専攻医は、形成外科領域の分野における科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力(知識・技能・態度)が身についた形成外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナリズム)。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること□
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

3.北九州総合病院形成外科専門研修プログラムの目標と特徴

北九州総合病院形成外科専門研修プログラムは到達目標を「自立したプロフェッショナルとしての形成外科医師」としています。2017年からスタートする新専門医制度に先立ち、北九州病院形成外科では、研修医制度が開始された年より後期研修医を受け入れてきました。その経験により洗練された研修内容を提供します。

北九州総合病院は、専攻医の皆様にも素晴らしい研究環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。

当施設は救急救命センター災害拠点病院の認定を受け、四肢外傷センター、熱傷ユニットを設立し外傷、熱傷などに対し他科と協力して治療を行っており、救急医療、外傷に対する絶対的なノウハウ及び技術を習得できます。

また当施設はがん診療連携拠点病院、周産期母子医療センターの認定を受けており形成外科研修に必須の皮膚悪性腫瘍や先天外表異常などの領域の研修も可能です。さらに当施設は地域医療支援病院であり、施設経営母体法人は、多くの老健施設や検査施設も保有しており、地域連携医療にも実績を有す組織であり、プライマリケアから先天性異常、腫瘍などに関する最先端の臨床・研究、高齢者特有の医療、地域医療まで広く学ぶことができます。

ちなみに2015年度の新患者総数は2013名で手術件数は2539例（レーザー治療を含む）でした

4.研修方法 参照資料

4.1 基本方針:□

形成外科専門研修プログラム「形成外科専攻医研修マニュアル」(資料1)およびその付属資料「形成外科領域専門医研修カリキュラム」(資料4)に沿って、北九州総合病院(基幹施設)において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、「形成外科領域専門医研修カリキュラム」(資料4)の総論およびを参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、「形成外科研修実績記録フォーマット」(資料2)を用います。専攻医は、年度毎に実績記録フォーマットの自己評価欄にフィードバックコメント、行動自己評価を行います。また「指導医評価表」(資料3)で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は、4.6 修了要件に定めると

おりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

形成外科の研修で経験すべき疾患・病態は、体表皮膚、軟部組織、筋、靭帯、神経、また骨軟骨組織などの器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、形成外科専門研修では、日本形成外科学会専門医制度が定める研修カリキュラムの「研修目標および必要経験症例数」（資料 5）以上を修得し、4 年間終了時には、専門医を修得するに必要な臨床症例を研修します。

i 臨床現場での学習

形成外科領域指導医の元、それぞれの研修施設における週間スケジュールに従って、外来診察、手術、病棟回診、診療科内でのカンファランスを通して病態の把握、治療方針の決定過程を学びます。また、形成外科では他科との協力のもと、治療に携わることが多いため、関連診療科との合同カンファランスでの治療計画作成の理論を学学習します。手術治療においては、教育ビデオなどを通して術前よりイメージトレーニングを行っておき、実際の手術では積極的に助手を務めながら学びます。

ii 臨床現場を離れた学習

日本形成外科学会総会・基礎学術集会における教育講演などを通して標準的治療を学ぶと共に、学会発表を見聞することにより先進的・研究的治療を学習する機会を持つようにします。総会、基礎学術集会における学術講習会への出席は必須です。また、医療倫理に関する講習会、医療安全セミナーやリスクマネジメント研修会などに参加する機会を持つようにします。これらの学習は各所属認定施設内あるいは医師会や学会主催の講習会のうち、形成外科領域研修委員会が認めるものについては出席記録を提出します。

iii 自己学習

形成外科が担当する疾患は種類が多岐にわたり、臨床的に遭遇する頻度があまり多くない疾患もあります。そのため、研修基幹施設での臨床修練だけでなく、著書や論文を通読して幅広く学習します。さらに、学会が作成している疾患ガイドラインやビデオライブラリーなどを通してより深く学習していきます。

iv 研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセスについて

各年度ごとの大まかな修練プロセスを示します。

専門研修 1 年目

医療面接・記録:病歴聴取を正しく行い、診断名の想定・鑑別診断を述べることができる。

検査:診断を確定させるための検査を行うことができる。

治療:局所麻酔方法、外用療法、病変部のドレッシング、固定法、理学療法の処方を行うことができる。基本的な外傷治療、創傷治療、創管理方法を習得する。

偶発症:考えられる偶発症の想定ならびに生じた偶発症に対する緊急的処置を行うことができる。□

専門研修 2 年目

専門研修 1 年目研修事項を確実にこなせることを前提に、形成外科の手術を中心とした基本的技能を身につけていく。

研修期間中に 1) 外傷 2) 先天異常 3) 腫瘍 4) 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド 5) 難治性潰瘍 6) 炎症、変性疾患 7) その他 について基本的な手術手技を習得する。

□

専門研修 3 年目

マイクロサージャリー、クラニオフェイシャルサージャリーなどより高度な技術を要する手術手技を習得する。

また、学会発表・論文作成を行うための基本的知識を身につける。□

専門研修 4 年目以降

3 年目までの研修事項をより深く理解し、自分自身が主体となって治療を進めていけるようにする。さらに、再建外科医として他科医師と協力の上、治療する能力を身につける。また、言語、音声、運動能力などのリハビリテーションを他の医療従事者と協力の上、指示、実施する能力を習得する。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を「形成外科専門研修マニュアル」(資料 1) および「形成外科専門研修カリキュラム」(資料 4) に沿って研修し、知識能 習得状況を 6 ヶ月毎に評価します(自己評価および指導医評価)。専門研修 プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したデータをまとめた「形成外科研修実績記録フォーマット」(資料 2)を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医が獲得できていない知識があれば、これを獲得するために指導医が習得について具体的指導や講習を行います。専攻医は学会主催の教育講座に積極的に参加し、形成外科診療を行うための基本事項を学習します。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、付属資料4「形成外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能習得状況を6ヵ月毎に評価します(自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表「形成外科研修実績記録フォーマット」(資料2)を参照し、技能習得に関する目標設定・取得調整・指導を行います。

獲得できていない技能があれば、これを獲得するため特別指導を開催します。

③ 経験目標(経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等)

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、形成外科専門研修プログラム解説資料4「形成外科専門研修における必要経験症例一覧」に明示された症例数以上を偏りがないように経験するように配慮します。

上記①～③の習得目標については、別紙「形成外科専攻医研修マニュアル」(資料1)、「形成外領域専門医研修カリキュラム」(資料4)を参照下さい。

④ プログラムによるカンファレンス、症例検討・抄読会

定期的にプログラムに準じたカンファレンスや症例検討会、抄読会を開催し知識の習得や技能の向上に努めます。また希望に応じて専攻医の知識・技能習得のために公開されるセミナーなどへの参加は専門研修プログラム管理委員会の承認もとに許可します。

⑤ リサーチマインドの養成計画

専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンス「レジデントデイ」を年1回開催します。研究指導は指導医が行います。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制(専攻医1人あたりの学会発表、論文等)

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画(医療倫理、医療安全、院内感染対策等)

形成外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、幅広い分野のどの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得させます。

北九州総合病院およびその他学会、地域医師会の医療倫理・医療安全講習会に参

加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

専攻医は研修期間中に地域医療を経験し、患者の社会的背景や希望も考慮して治療方針選択し適正な医療を提供する必要があります。地域における病診・病病連携のシステムを理解し、病態を正確に評価し、単独で治療が可能か、連携すべきかを判断します。具体的な対象疾患は外傷(顔面外傷、熱傷、手外傷)、糖尿病性足病変、難治皮膚潰瘍、褥瘡などがあります。形成外科における慢性的な疾患の治療においては、地域医療機関との関わりが不可欠でありまた、在宅医療においても他の医療従事者と連携して積極的に係わり、形成外科の専門知識を治療に反映させていくことが必要です。

地域医療に貢献するためには、総合的な治療マネジメント能力が必要であり、地域に密着した形成外科医療を研修し外来診療時の施設従事者や地域連携とのコミュニケーションを取得するために地域の勉強会や講演会に積極的に参画する事が有用です。

当医療法人は関連病院として地域老健施設も有しており、基幹施設以外の施設で地域医療研修を専門研修プログラム内に明示し承認を受け、3ヶ月間以上の地域医療研修を実施する事とします。これは専門医研修内の研修として認められます。この地域医療研修により、その地域特有の病診連携や病病連携について理解し実践する事により幅の広い医療習得が可能になります。

⑨ サブスペシャルティ領域との連続性について

形成外科専門医の Subspecialty 領域として、の専門医取得が可能な領域は、皮膚腫瘍外科,創傷外科,頭蓋顎顔面外科,熱傷,手外科,美容外科があります。専攻医に対しては、形成外科領域専門医を取得した上で Subspecialty 領域を専門にすることを推奨し Subspecialty 領域への連続的な育成に配慮します。本プログラムの北九州総合病院にはこれら Subspecialty 領域の研修が可能ですが、さらに研修期間中に指導医のアドバイスをもらい専攻医が Subspecialty 領域の症例経験や学会参加、研修などを行うことも基本的に自由とします。形成外科専門研修期間からこれらの Subspecialty 領域の研修を行うことができ、専攻医の Subspecialty 領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

① 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 ヶ月に 1 回行い、(9 月末および 3 月末)専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた北九州総合病院での研修評価(態度も含めた総評)を研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演 受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

② 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

プログラム管理委員会は以下の役割や権限を持つこととします。

専門研修プログラムの作成を行う。

□年 4 回の定期委員会(6,9,12,3 月)を開催し専攻医が予定された十分な手技と経験と学習機会が得られているか評価し対応法を検討します。3 月に専攻医 4 年次の修了判定の評価を行います。

定例委員会に加え研修に支障を来す事案などが生じた場合などには、必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告および研修プログラムはホームページで公開します。

③ プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画

指導医は形成外科専門研修プログラム「形成外科指導医マニュアル」(資料 6)に従って専攻医を指導します。認定機構による専門医制度が開始された当初であり、指導医の指導技能向上のため、他施設の専門研修プログラム管理責任者と連絡を取り専門医認定機構や形成外科学会担当委員会の指導に従い指導医の向上に務めます。この指導医のスキル向上目的での厚生労働省および日本形成外科学会主催の指導医講習会やセミナーなどへ積極的に参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④ 専門研修プログラムの評価と改善方法

i. 専門研修プログラム管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

ii. 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は各年次の終了時に 1) 指導医 2) プログラムに対する 5 段階評価を行い、指導医の問題点や自らの要望、研修をアンケート用紙に記載(匿名)し専門研修プログラム委員会へ提出します。これらを基に適時必要な改善、フィードバックを行います。専門医研修委員会は専攻医の不利益にならない様に配慮します。

以上は研修マニュアルに明記されており、専攻医によるプログラムと指導医評価、改善の手だてが保証されています。問題が大きい場合や専攻医の安全を確保する必要がある場合等には専門研修委員会の協力を得る事ができます。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

プログラム統括責任者は、専攻医の適切な労働環境の整備に務め、また専攻医の

心身の健康維持に配慮し責務を負います。

給与、福利厚生、労働災害補償などについては施設の処遇既定、就業規則に従います。

専攻医の安全、衛生、災害補償、就業条件、休職、休暇などについては関連する法をまず遵守しますが、必要に応じ施設長の裁量のもと弾力的に運用します

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ① 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
 - ② 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
 - ③ 臨床医として十分な適性が備わっていること
 - ④ 研修期間中に日本形成外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
 - ⑤ 1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- 以上 ①~⑤ の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

北九州総合病院では「形成外科専門研修カリキュラム」(資料 4)にあるすべての分野を研修することができます。北部九州地区の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【北九州総合病院週間及び月間予定表】

	指導医数	週間スケジュール				
		月	火	水	木	金
		早朝ミーティング	早朝ミーティング	早朝ミーティング	早朝ミーティング	早朝ミーティング
		AM 外来、手術	AM 外来、手術	AM 外来、手術	AM 外来 手術	AM 外来 手術
	1	PM 手術 特殊外来(先天異常)	PM 手術 特殊外来 (皮膚腫瘍)	PM 手術 特殊外来 (レーザー)	PM 総回診 カンファレンス、 手術検討会、 抄読会	PM 手術
月間 予定表						
		北九州総合病院 形成外科専門研修医 月間スケジュール				
		月	火	水	木	金
	第1週	PM 研修医症例検討会			予定手術予定表作成 術前検討会計画	PM 振り返り 週末申し送り
	第2週	PM 研修医症例検討会	PM 褥創回診		病理検討会	PM 振り返り 週末申し送り
	第3週	PM 研修医症例検討会			X線カンファレンス	PM 振り返り 週末申し送り
	第4週	PM 研修医症例検討会	クリニカル カンファレンス		PM 病棟連絡会	PM 振り返り 週末申し送り
	備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修医症例検討会は総回診でプレゼンテーションする症例について指導医および上級医が指導するものである ・ 病棟連絡会はナースとの連絡会議である ・ 振り返りは1週間の研修を上級医と振り返るものである ・ 第4週火曜日のクリニカルカンファレンスでより深く学習した1例について学会発表形式で報告する 				

6. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの設置、管理運営体制

基幹施設である北九州総合病院においては、指導管理責任者(プログラム統括責任者を兼務)および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本形成外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために当基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する形成外科専門研修プログラム管理委員会を設置します。

専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、専門研修指導責任者、専門医を委員とします。必要に応じ施設長や他科医師、他職種の参画を求めることができます。

② 基幹施設の役割

基幹施設である北九州総合病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医を管理します。また基幹施設として研修環境を整備し、専攻医が形成外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の習得目標を修得できるような専門研修プログラムの管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、形成外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本形成外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している形成外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

1) 形成外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 形成外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、形成外科専門研修プログラム統括責任者や指導医指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認

める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 形成外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、形成外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、形成外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の形成外科診療および形成外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした形成外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

1) 形成外科専門研修指導医の基準を満たす形成外科専門医

2) 医学博士号またはピアレビューを受けた筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

1) 専門研修基幹施設である北九州総合病院部附属病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。

2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

北九州総合病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次 1 名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患数及び手術数で定められている受入基準に照らし合わせ受入可能専攻医数を各年次 1 名と設定しました。

【応募方法】応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要な情報は病院のホームページを参照ください。

<http://www.kitakyu-hp.or.jp>

必要書類：

- ① 申請書 (ダウンロード)
- ② 履歴書 (ダウンロード)
- ③ 医師免許証 (コピー)□
- ④ 医師臨床研修修了登録証 (コピー)
- ⑤ 健康診断書

【募集期間】 7 月末~9 月 30 日

【問い合わせ先】 □

〒800-0295 福岡県北九州市 小倉南区 湯川 5-1 0-1 0

北九州総合病院 形成外科

担当: 迎 伸彦(研修プログラム統括責任者)

Tel: 093-921-0560

Fax: 093-922-1367

n-mukae@kitakyu-hp.or.jp

【病院見学の申し込みについて】

北九州総合病院病院は随時、病院見学を受け付けております。

下記ページの連絡先を参照にお申込み下さい。

北九州総合病院形成病院ホームページ

<http://www.kitakyu-hp.or.jp>